

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501297		
法人名	株式会社 システム通信		
事業所名	グループホーム 和 みずもと		
所在地	室蘭市水元町53-12		
自己評価作成日	平成25年10月21日	評価結果市町村受理日	平成25年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人の意思を大切に一人ひとりに合わせた支援を行い自立支援に向け見守り、残存機能の維持に努めている。利用者様の好み・希望を取り入れ、豊かな四季を感じられるような外出行事を多々企画、取り組みを行なっている。又、夜間はホーム内全体がアロマテラピーを実施し、心を安らいでいただいている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani%3D%3E&JigvosyoCd=0173501297-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成25年12月4日

室蘭市郊外の緑豊かな住宅地に建つ、鉄筋コンクリート造り2階建て、2ユニットの事業所である。事業所内は随所に工夫が見られ、リビングの大きな窓からは、近隣の住宅や四季折々の野山等の景色を眺めることができ、各居室は皆が集うリビングから離れており、静かで落ち着ける環境にある。広く長い廊下は歩行運動に効果を上げており、廊下の中間部分には談話室が配置され、自由に休んだりくつろぐことができる。利用者は、近隣住民と買物や散歩時に気楽に挨拶を交わし、町内会行事には積極的に出席している。また事業所では、冬季間所有の除雪車で近隣の道路や歩道を除雪し、町内に貢献している。職員は、内外の研修に参加し自己研鑽する事で、介護福祉士等の国家資格を取得している。家族には、月に一度利用者の健康状態を記載した、写真入りの個人別報告書を送付している。さらに利用者の経験や知識が発揮できるように、外出や外食行事を積極的に取り入れており、利用者の楽しみ事になっている。個々の尊厳を尊重し、穏やかで安心・安全な日々を送れるよう、利用者の自立支援を実践している、温かい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、毎日理念を唱和し日々実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた、事業所独自の理念を作り、リビングや事務室等に掲示している。朝礼時には全職員で唱和し、理念を共有・実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事等参加を行なっている。祭典への出店、文化祭への出品物等参加も自然に行なうようにつながりを保たれている	町内会に加入している。夏祭りや文化祭等の町内会行事に参加している。事業所にはボランティアや実習生の訪問も多く、常に外部と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の行事等に参加することによりホームの姿勢をみていただきいつでも見学できるようになっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度御家族に参加依頼し出席して頂ける御家族と共にホームにて行い、情報交換と御家族の意向を聞き意向に沿えるよう心がける	運営推進会議には、家族代表・行政職員・地域代表・法人代表・管理者等が出席し、事業所の活動・事故報告・行事予定と報告等が話し合われ、事業所の運営に効果を上げている。	運営推進会議会議では、事業所の取り組みとしての防災計画・防災訓練や、職員の離職・入職等も報告し、会議終了後は、議事録の送付を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム運営及び入居者様のケアサービス等介護保険及び保護課との協力関係を築いている	グループホーム連絡会に参加して情報を共有し、行政方針の理解に努めている。室蘭市保健福祉部職員は、運営推進会議に出席し、意見交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない状態を目指し心身の機能を正確にアセスメントし身体拘束を必要としない状態を作り出す方向を追求する。問題行動の原因を追究し取り除く支援	夜間の数時間以外玄関は施錠していない。身体拘束や虐待に関しては、外部・内部研修で学び、利用者の自由な生活を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待事例、発生原因の分析、働きやすい職場作りの実現。介護従事者の心身の調子を整え健康状態が良好である事		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で制度の内容を把握し必要時に備えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、入居契約書に添い説明し理解、納得を図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置し、苦情・要望をいただける様対応を行なっている	玄関には意見箱を設置し、家族が意見や要望等を表出しやすい工夫をしている。また来所時の会話の中から希望や要望をくみ取り、家族の思いを運営に反映するようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、主任会議等会議にて話し合いをし職員の意見を聞いている	職員参加のユニット会議は月1度開催しており、意見や提案を聞く機会がある。そこで出た意見は、ケアサービスの充実に効果を上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入社年数、介護経験に応じた研修への参加、就業規則にならった労働及び福祉厚生の完備、取得資格による給与支給が行なわれている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤続年数、経験年数に応じた研修への参加を積極的に行い研修で得たことについて他職員へ報告しスキルアップに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	室蘭グループホーム連絡会参加、室蘭ケアマネージャーの会参加、他ホーム見学、実習の参加等にて交流を図っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを行い、センター方式の報告書の提出、ご本人の意向確認、又体験入居をして頂き感想を参考にし対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族様の話をよく聞き質問等を受けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様に見合った支援の見極めをし自尊心に配慮しながらの支援を行なっている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で本人が出来ることをして頂き、出来ない部分はスタッフがケアし共に生活している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の仲介に立ち家族と一緒にケア内容を考え取り組んでいる		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	結婚式、クラス会、美容室等出来る限り関係が途切れないよう努力している	家族を含め親族や友人知人の訪問もあり、クラス会や結婚式の出席は、安全面や体調に配慮し、職員が付き添いや送迎の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格、好み等を把握し、見守りを基本に時には介入しつつ、より良い関係が保てる様心がけている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も入居者様の家族と連絡を取り入居者様との接点を持ち相談・支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアを念頭に置き状態・状況に合わせて快適に生活を送って頂ける様配慮に努めている	センター方式を活用して、家族から得た情報や本人の日頃の行動や表情、過去の生活歴を基に本人の思いや暮らし方の希望、意向を汲み取り、職員間で情報の共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居開始にあたってセンター方式に添ってアセスメントを行なっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り等職員との情報交換の共有を図り、ケアの統一化に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議においてスタッフ全員でモニタリングやカンファレンスが行なわれている	身体の変化や本人・家族の要望を取り入れ随時見直しを行っている。医師や看護師とは連絡を密にし、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録、業務記録に記入が行なわれ、モニタリングによる実施状況が確認されている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	クラス会参加、孫の結婚式参加等家族と共に相談し支援を行なっている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意志を確認した上での町内会行事の参加等の支援。ボランティアの方々の踊り・手品・民芸民話等のホーム内開催も行なわれている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、個々の対応、家族の希望を大切にしながらH24.3より訪問診療を取り入れ対応を行なっている	2週に1度、協力病院医師の訪問診療がある。また病状に合わせた医療機関を受診できるように、付き添いや通院の支援をしている。事業所には看護師が勤務し利用者の健康を支えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡、報告、相談をしアドバイスや適切な処置方法を随時受けている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカー・医師・看護師・ケアマネージャー・家族と共に情報を共有し連絡を取り合っている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約書において重度化の指針、重度化及び看取りの説明を行う。又、協力病院ともカンファレンス時、家族・スタッフ共に考え支援に取り組んでいる	『重度化した場合における対応に係る指針』を文書化し、話し合いをしている。職員は、ターミナルケアや看取りの研修に参加し、本人や家族の希望を重視して、チームとして支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し定期的な確認を行なっている。消防主催の救急救命講習会のスタッフ全員参加			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練実施し職員繰り返し行なっている。地域密着を有効活用し協力の声掛けを行っている	消防署の協力の下、年2回昼夜を設定した避難訓練を利用者と共に実施しており、災害時備蓄品も準備している。	火災以外の、台風・地震・竜巻などの自然災害に対応できるような防災訓練の実施と、訓練することで見てくる、倒れる危険のある家具や電気製品の固定、避難訓練の地域の協力依頼など、運営推進会議や職員会議で検討することを期待する。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し声掛けに配慮しかわりを大事にしている	利用者本人の、プライドや羞恥心を大切に誇りを傷つける事がないように注意し、プライバシーに関わる事は、周囲に配慮しながら行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定出来る声掛けに工夫を行なっている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の日常スタイルを把握した上で本人の負担にならない支援を行なっている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の好みを聞き入れながら服を身に付けて頂いたり訪問美容師、なじみの美容室に外出等にて支援している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ること(盛り付け・茶碗拭き等)を行なって頂き、入居者様とスタッフは一緒に席で食事を共にしている	利用者と共に、準備・配膳・後片付け等を行い、職員も同じ食卓に着き、会話を楽しみながらゆっくり食事が出来るよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分摂取量、体重・排便チェック表を作成し嚥下状態、体重の変動等に合わせ刻み食、とろみ食等工夫、考慮して支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の誤嚥防止、口腔内清潔を保つよう毎食後個々に合わせた口腔ケアを行なっている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り日中帯のリハパン脱を目指している。自発的にトイレに行かない入居者様には声掛けを行い介助支援を行なっている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、周りの人に気づかれぬ様に、さりげなくトイレ誘導し排泄の自立支援をしている。各ユニットに3ヶ所あるトイレは、使いやすく整備され清潔である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックリストを作成し服薬・水分量の調整を行なっている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なかなか好きな時間帯での入浴は難しいが強制的ではなく本人の判断にゆだね清潔の保持に努めている	利用者の希望や体調に合わせて入浴できるように支援している。入浴を好まない利用者には、温泉施設の家族風呂を利用するなど、工夫をしながら清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠効果のあるアロマ使用、個々に合った居室の明るさの調整・時間帯・その日の疲れ具合を配慮した支援を行なっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院・薬局とも協力し服薬情報を活用し用法を把握、又服用前に再々確認を行い誤薬がない様努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の得意分野を活かしホーム内でも実践出来る様支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	単独での外出はなかなか出来ない現状であるがユニットでの外出は多く取り入れている	心身の活性化につながるように、一人ひとりの身体状態に配慮しながら、日常的に近隣散歩や、菜園・花畑での作業に参加している。外食や行事外出の機会も多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様で現金所持を希望している方は少ないが時々買い物はスタッフ同行にて支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のあった場合は勿論、家族・友人との連絡を取り次ぎ年賀状・手紙等にて対応できる様支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険回避工夫の為の家具等配置。テレビ音量、日差し等の配慮、季節を感じられる様装飾の工夫。パネルヒーター、空気清浄機、加湿器使用し一定環境の整備に努めている	玄関・居間・キッチン・浴室・廊下等は広くゆったりとした造りになっており、直線の廊下は歩行運動に効果を上げている。テラスには、イスやテーブルが置かれ日光浴や暖かい日の、昼食やティータイムに利用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室ではカラオケ、世間話、廊下のベンチにて過ごされている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族と相談し馴染みのものを持参していただく(写真・タンス・琴・仏壇等)	居室には自宅で使い慣れた私物や調度品などを持ち込み、馴染みの品々に囲まれ安心して寛いで過ごせるよう配慮・工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、居室前の表札、トイレの案内等環境整備に努めている		